

新入生へのメッセージ

柳澤 保徳
奈良教育大学 学長

今年も新入生を迎える季節となりました。本学には、奈良県外からも多くの皆さんが入学します。そこで、奈良のことを少しだけ紹介しましょう。奈良市内には、古く奈良時代から続く社寺と本学の東側に位置する春日山原始林があり、それらはいずれも世界遺産「古都奈良の文化財」に登録されています。また、季節ごとに繰り広げられる伝統行事が市民の日々の暮らしの中に溶け込んでいるのも奈良の特徴です。このような素晴らしい歴史と文化、自然環境の中で、皆さんはこれからの学生生活を始めることとなります。大学での学びとともに、地域の中でも多くのことを学んでください。

国立大学法人としては3年目を迎えますが、本学では、昨年度から、まず養成すべき学校教員の資質目標

基準の明確化を中心とした『カリキュラムのフレームワーク作り』に取り組んでいます。あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、本学の教員養成課程の授業の充実、学生の皆さんの豊かな知識の獲得とともに、教師としての確かな力量の育成に責任を持つカリキュラムの構築、さらに一層の質の向上を目指す取り組みです。期待してください。

さて、奈良教育大学は学生・院生あわせて約1200名という小規模な単科大学です。最近、大学マネージメントに関するある雑誌を読んでいると、「アメリカの小規模大学（カレッジ）の適正規模は？」という記事が目にとまりました。ある小規模大学では、1000名規模の大学でこそ特色ある学生教育ができる、と主張しています。その理由として、

「①大学の校風としての『親密な雰囲気』が保てること、②目立たない存在感のない学生など、ありえないこと、一人ひとりがあなたのことを知っていること、そういう中でこそ、責任感とか知性とかは育つもの」とありました。1万人の中の一人なのか、千人の中の一人なのか、というところでしよう。奈良教育大学では、小規模であるがゆえに、学生の間でも、学生と教職員の間でも、直接向きあったコミュニケーションが成り立ちます。

奈良教育大学では、これまで『学問・学芸を尊ぶ学風』を大切にして、少人数教育や導入教育に力を注いできました。そして、先程のカリキュラムフレームワークに基づく教育を実践する大学へと進化していきます。

でも、小さいことだけでは限界が

あります。大学を取り巻く地域には、小中学校をはじめとして、学生諸君が参加できるさまざまなボランティア活動の場があります。また、課外教育活動の一環としてのサークル活動にも積極的に取り組んでほしいものです。スポーツであれば、他大学との競技会などを通じてともに切磋琢磨する友人に巡り合えることでしょう。そして、さらに目を世界に転ずれば国際交流協定校を中心とした海外への留学の機会があります。若い時代に他国の文化に直接接することの意義は言うまでもありません。機会があれば是非チャレンジしてみてください。

それでは、これからの4年間、奈良教育大学の新しい未来を、ともに切り開いていきましょう。